



特集

学生が学び育つ図書館をめざして
 — 学生協働と教員連携 —

p.2

しまだい資料探訪⑧

「西東文庫」

— 欧米人の見た幕末以後一三〇年にわたる日本の記録 —

p.6

共同企画展示・講演会

p.8

- 出雲・石見の人々と近世文学
- 「異国」からみたニッポン

情報活用ステップアップ講座②

p.10

レポート・論文作成、研究に役立つ
 データベースを使いこなそう

図書館員のお仕事

p.12

遡及入力 — 二十年の軌跡 —

研修報告

p.17

書評

p.14

『なっとくする数学記号』『天地明察』『さまよう刃』
 『最後の授業』『長生きすりやいづてもんじやない』
 『待つ』ということ』

イベント & ニュース

p.18

本学教員著作の寄贈

p.16

自著紹介

● 竹田健二著『市民大学の誕生』

2011 VOL.11
 FEBRUARY

特集

学生が 学び育つ 図書館を めざして

—学生協働と教員連携—

始めました。また、継続して開催している学術情報リテラシー講習会を通じて、学生の自主的な学びを支援しています。

教える側も教わる側も、ともに学び育つ図書館をめざして、「協働」と「連携」は重要なキーワードとなっていくでしょう。

◆◆◆学生協働 ◆◆◆図書館コンシエルジュ

図書館コンシエルジュは、図書館を利用する学生をコンシエルジュとなった学生がサポートする活動です。また、学生の目線で図書館のサービスを見直し、自ら企画して、サービス改善のための様々な取り組みを行っています。「平成二十二年度教育改革推進事業《島大G.P》」採択事業として今年度新たに活動を開始したもので、学内公募に応募してくれた九名の学生がコンシエルジュとして活動しています。十月からスタートし、半月間の研修期間を経て本格始動しました。活動の二本柱である「学習サポート」と「図書館業務サポート」それぞれの活動状況を紹介します。

■コンシエルジュの活動

○学習サポート

図書館のサービスカウンターには様々な質問が寄せられます。「図書が見つからない」「○○○に関する文献の探し方を教えて欲しい」など資料や文献検索に関するものから、館内PCの使い方や印刷の仕方についてなど様々です。これらすべてをカウンター職員一名で対応していましたが、手薄だった二階閲覧室と情報メディアルームにコンシエルジュを配置することで、学生からの質問を受けられるようになりました。また、返却された図書を書架に戻す作業中も質問を受けています。サービスポイントを増やすことよって、質問しやすい環境を作ることが目

的です。年齢の近いコンシエルジュの方が気軽に質問できるのでは、という狙いもありました。

学習サポートは、利用者である学生へのサービス向上となるだけでなく、サポートするコンシエルジュ自身にとっても、図書館を使うノウハウや学術情報リテラシーの育成にも役立っています。現在までのところ、質問があまり活発に寄せられないことから、質問を受ける場所や広報の仕方など課題も明らかになってきました。

○図書館業務サポート

図書館サービスの改善と利用の活性化を目指し、コンシエルジュ自身が企画した業務に取り組みます。一ヶ月ごとに実施計画書を作成し、グループまたは個人で計画書に基づいて業務を進めます。これまでに次のような業務を実施しました。

◆館内マップ作成

四名のグループで館内に掲示する館内マップを作成しました。これをもとに携帯用のミニマップと案内も完成し、館内で配布しています。

◆数学の質問箱

数学書の近くに質問箱を設置しました。数学に関する疑問点を書いた質問票を投函してもらい、参考となる図書を紹介しつつ疑問点に対するヒントを提供しています。

◆ライムシート

書架に本を探しに行ったり、食事のために一時的に席を離れる時、また元の席に戻りたいことがあります。このような時にこのシートを置き、席を確保しておくことができます。学生ならではの体験から生まれたアイデアと言えます。

◆図書の企画展示

図書館の資料や観光ガイドなどを使い、各都道府県のおススメを紹介するコーナーができました。十一月は「冬の北海道を満喫!」「島根県の魅力発見!」を、十二月は「岡山・鳥取を歩く」をテーマとし

大学図書館が「学びの場」という本来の機能を活性化させるため、学生が学生を支援する「ピアサポート」を導入する大学が増えてきています。質問しやすい環境をつくり、教える側も自身のスキルアップに繋がるこの取り組みは、これまでの図書館になかった新しい形の学習サポートです。

附属図書館本館では「図書館コンシエルジュ」が誕生しました。本が好き、人に教えるのが好き、図書館をもっと使いやすくなりたいなど理由は様々ですが、熱意ある学生たちが図書館を変えようと、活動を始めました。以前から実施していた学生選書を含め、学生のアイデアと行動力で、これまで無関心だった学生の足を、図書館に向けてくれることを期待します。

一方、教員との連携もなくてはならないものです。これまでシラバスや教員推薦図書の整備を行ってきましたが、利用は伸び悩んでいました。本館では今年度から、一部の授業について推薦図書の専用コーナーを設け、授業と連携した資料利用の取り組みを

した。

◆ブック・コンパス◆

二年前にスタートした「ブック・コンパス」コーナーを、コンシエルジュに担当してもらいました。十一月は「やさしい数学の本」、十二月は「同世代だからこそわかりあえる文学」をテーマに関連図書を表示しました。展示図書のほとんどが常に貸出状態という、非常に人気のコーナーになりました。

■コンシエルジュの横顔

現在活動しているコンシエルジュは大学院生三名、学部生六名の九名です。大学院生は全員が人文社会科学研究科の所属で、学部生は法文学部三名、教育学部一名、総合理工学部一名、生物資源科学部一名です。本が好きな人、将来図書館で働きたい人、人に教えることが好きで教員を志望している人、後輩に図書館の使い方を教えたい人など動機は様々ですが、皆真剣に活動に取り組んでいます。

■コンシエルジュの活動が目指すもの

コンシエルジュの活動は、学生によるピアサポートを通して、学習の場としての図書館本来の機能を活性化させようとする試みです。図書館を利用する学生のみならず、職員だけでなく学生とともにサポートしながら、図書館がこれまで取り組んできた学術情報リテラシーの育成支援を行います。また、使いやすく居心地のよい場所を作ることで図書館を活性化させ、これまであまり図書館を利用したことのない学生を呼び寄せようという活動でもあります。

このような取り組みを通して、コンシエルジュの学生が自らの学術情報リテラシーを育み、またキャリア意識の形成や仕事を進める上での責任感の涵養を図ることも目指しています。

■コンシエルジュのこれから

図書館に限らず、学生への学習支援が必要とされる局面は多いと思われませんが、今後は大学全体としてそのような枠組みを形作る必要があります。図書館のこの取り組みは、モデルケースのひとつとして、今後の全学的取り組みへ向けての具体的な活動事例を提供できると考えています。今年度の活動を評価し、問題点・課題を明らかにして、次年度以降の活動に反映できるようにします。そのためには、年間を通して活動できる予算の獲得というハードルをまず越えなければなりません。



館内マップ・完成で～す



冬の北海道・島根県の魅力 展示中

◆◆◆学生協働 ◆◆◆学生用図書の選書

図書館の最も重要な要素であり、利用者サービスの基本である蔵書。その選書に学生がかかわる意義は大きいものがあります。選書体験を通して蔵書への理解や関心を高め、図書館の利用促進につながることを期待できますし、図書館にとっても、職員とは違った視点での選書が可能になり、学生が興味を持てるような図書を揃えることができます。

また、学生が図書館の運営に参加することで、これまで一方的に図書館から与えられた情報を利用しているだけだったのが、「図書館を創る」という意

識が生まれてきます。このような意識の高まりが図書館サービスの改善につながり、結果的に図書館への満足度を高めていくのではないのでしょうか。

■選書ツアー・POP作成

本館では選書企画のひとつとして、平成十七年度より学生選書ツアーを始めました。選書ツアーは市内の書店に向き約一時間かけ選書します。選書した図書は重複分を除き、内容や価格、分野のバランスなどを検討した上で購入します。今年度までの六年間で、のべ四十人の学生が参加し、約七五〇冊の図書を購入しました。

選書ツアーに参加した学生は、学生の代表として自分の興味のあるものだけでなく、「大学図書館にふさわしい図書」であることを強く意識して選書しています。また、普段は買うことができない高額な図書や、一度に何冊も選べる喜びを味わい満足感を得ています。アンケート結果をみるとほとんどの学生が「やりがいがあった」、「機会があればまた参加したい」と言っています。

これらの中から、ぜひ読んでもらいたい図書をピックアップして一定期間展示しています。本が目立つように、より多くの人に読んでもらえるように、ツアーに参加した学生が創意工夫しPOPを手作りしています。



選書ツアーに行ってきた～す



この本はもう図書館にあるね

■学生選書企画

このほかに学生が選書にかかわる企画として、平成十九年度から始めたリクエスト図書購入があります。年間を通じてのリクエストとは別に、テーマやジャンルを決め、期間限定で学生からのリクエストを募集します。リクエストされた図書はすべて購入するのではなく、購入するかどうかを学生が最終的に判断します。選書や利用促進などの図書館業務に関わることは、キャリア教育の一端ともなっています。



読んでみたくなるようなPOPがいっぱい

◆◆◆ 教員連携 ◆◆◆ 学生用図書の選書

学生用図書の整備、充実は学生の学習・教育の基盤であり、人間形成の上でも欠かせないものです。学生用図書の選書は図書館職員だけでは限界があり、授業を担当し、学生と身近に接している教員と連携することでさらに的確な選書ができ、より良い蔵書構築が可能になります。

■研究室推薦図書

研究室推薦図書は、年度初めに学科、講座等から、学生数に応じた予算の範囲内で図書の推薦してもらいものです。年間を通して推薦してもらいことができれば、新刊書などをタイムリーに提供することが

ができます。

■見計らい選書会

本館では、平成二十年度から年二回「見計らい選書会」を開催してきましたが、選書の機会を増やすため、次年度からは通年で実施する計画です。毎月分野を決め、新刊書を中心にした図書の中から、各専門分野の先生方に選書してもらおうと考えています。大学図書館にふさわしい学術書を揃えることができ、カタログやデータベースから得られる情報だけでなく、実物で内容を確認しながら選書できるため、安心感があります。

将来、「あの時先生から薦められた本を読んでいたら、今の自分があるのだ」と感じてくれる学生が出てくるかもしれません。

◆◆◆ 教員連携 ◆◆◆ 授業関連図書コーナー

平成二十二年四月に、初年次教育プログラムの授業を中心に、教員から希望があった授業の推薦図書を揃えた「初年次教育・授業関連図書コーナー」を設けました。これまでも研究室推薦図書はありましたが、購入後は他の図書と同じように配架されていたため、教員との連携が十分生かされていませんでした。選書も重要ですが、資料利用促進のひとつとして、配架後の利用のさせ方について工夫してみることにしました。

■利用しやすくするための工夫

このコーナーには、十八科目一三一タイトルの図書が置かれています。学生が利用しやすいように、次のような工夫をしています。

- ①学部名、授業科目名をわかりやすく表示
- ②図書には授業科目や必読・推薦などを表すシールを貼付

- ③各タイトルごとに複数冊(二〜三冊)用意し、うち一冊は館内閲覧のみとする
- ④「情報探索Navi」で関連する情報も紹介

■利用状況と課題

貸出回数(H22.4~12)	
法文学部	21タイトル 37回
教育学部	8タイトル 14回
総合理工学部	16タイトル 27回
生物資源科学部	17タイトル 40回

授業によってはよく借りられているものもありますが、全体的にそれほど多くはなく、一度も借りられていないものもあります。利用促進を目指してコーナーを設置したことは一歩前進ですが、設置のみに終わらせず、場所、貸出期間、広報などさらなる工夫が必要です。教員からの呼びかけも重要です。設置を希望する授業科目がもつとふえ、学生がこのコーナーを当たり前のよう利用してくれるようになってほしいのです。



授業関連図書コーナーの書棚

◆◆◆ 教員連携 ◆◆◆ 学術情報リテラシー講習会

■講習会の開催

図書館では、提供している多くの学術情報資源が

効果的に活用されるよう、利用講習会を行っています。従来は図書館が日時、会場、内容を定めて案内する主催型が多かったのですが、最近では、教員などからの申込みを受けて行うオンデマンド講習会を広げつつあります。

オンデマンド講習会は、授業やゼミ、学生からの申し込みを受けて開催します。申し込み側にとっては、授業の進行状況に沿った適切な時期に行うことができ、授業のテーマに応じたデータベースを重点的に取り上げることで、授業が求める内容にふさわしい講習をすることができ、また、図書館側にとっても、施設やサービス、学術情報の検索に関する知識を、今後の学習に必要な知識として授業の場で一度に伝えることができるため、効果は大きいと言えます。

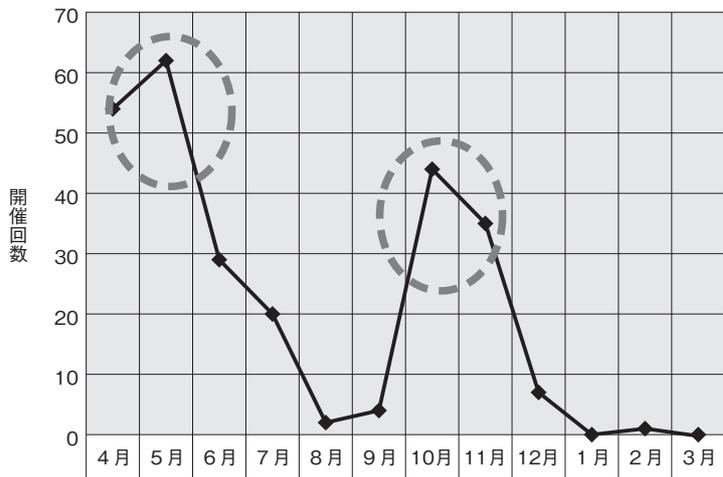
■本館

シラバスなどを参考にしながら申込者と相談し、適切なデータベースを選択し、解説や検索課題などを作成しています。前期に行う一年生対象の授業では、主に図書館の施設とサービスを紹介するメニューを取り入れています。

後期は、学生のレベルに合わせたデータベースの実習を基本としています。利用できるMOL情報資源が増え、提供されるコンテンツの変動や新機能の付加など、一年前の講習内容と異なることも多く、多様化して便利になった反面、操作も複雑になるため、自分でキーワードを入力して検索を体感してもらう検索実習は必須です。平成二十一年度からは、初年次教育対応授業として、これまで申し込みのなかった分野の授業からのオンデマンド講習会を受け付けました。授業の各段階を通じて、「学術情報リテラシー」支援活動の充実を図っています。

学術情報リテラシー講習会 開催回数（本館） 平成19～22年度累計

年度	H19	H20	H21	H22	累計	
実施回数	72	59	56	71	258	
月別	4月	19	10	9	16	54
	5月	9	16	18	19	62
	6月	6	6	9	8	29
	7月	8	7	3	2	20
	8月	0	1	1	0	2
	9月	3	1	0	0	4
	10月	17	12	5	10	44
	11月	10	2	8	15	35
	12月	0	3	3	1	7
	1月	0	0	0	0	0
	2月	0	1	0	0	1
	3月	0	0	0	0	0
種類別	授業	24	19	21	32	96
	研究室・ゼミ	2	7	1	1	11
	学生	2	12	5	1	20
	職員	0	2	0	0	2
図書館主催	44	19	29	37	129	



講習会のピークは、4月～5月、10月～11月となっている

*平成22年度は11月19日現在

■医学図書館

医学図書館では、平成十二年に看護学科の教員から依頼を受け、二年生の授業「看護研究の基礎」で初めて授業へ参画して以来、継続して教員との連携による講習会を実施しています。医学部には医学科と看護学科があり、授業内容に応じて教員と相談しながら使用するデータベース等、講習会の内容を決めていきます。

医学部での学習、情報収集の手段は、低学年では図書の割合が高いのですが、高学年になると、卒業研究や臨床実習等で、雑誌論文の必要性が高くなります。そのため、学生にとって医学系の文献データベース（医中誌Web、PubMed等）や電子ジャーナルの利用法を習得することは、必須条件であると言えます。

看護学科二年生の「看護研究の基礎」、三年生の「外書講読」の授業は一度に七十名も受講するため、一人一台のパソコンでデータベース検索等の実習ができるよう、医学部情報科学実習室で実施しています。また、医学科三年生の授業科目「講座等配属」は講座単位で八名程度の受講のため、図書館セミナー室で実施し、パソコンで一人ずつ実習してもらいます。どちらの講習会でも、文献検索から論文を入手するまでの一連の流れについて、データベース検索、OPAC&ShimanelINKSからの雑誌や電子ジャーナルの利用、学外への文献複写依頼等、授業科目に関連するテーマでの演習で、興味をもちながら習得してもらっています。

第8回

しまだ
資料探訪

「西東文庫」

欧米人の見た幕末以後
一三〇年にわたる日本の記録

島根大学名誉教授 常松正雄

島

根大学医学図書館には、昭和六十三年度全国共同利用図書資料（大型コレクション）として購入された八二七冊のまとまった蔵書がある。このコレクションは、詩人ゲーテの『西東詩集』に因んで「西東文庫」と命名され、今日に至っている。

こ

のコレクションは、幕末の嘉永四年から第二次世界大戦を経て昭和六十年までの間に、英、米、独、仏、スペイン、ポルトガル、オランダその他欧米諸国の人たちが、自ら直接訪ねたその当時の日本の姿を、欧米の人たちに伝えるために本の形で残した貴重な記録で、殆んどは英語の書籍であるが、P・ロティのフランス語作品群や、W・J・S・モラエスのポルトガル語の著作など、英語以外の外国語も六八点含まれる。八百冊を超えるこれらの資料の大部分が、写真や挿絵（黒白・カラー）がふんだんに添えられ、現在の日本では消えてしまったいろいろな儀式、習慣、人びとの生活の姿など、臨場感を与えながら伝えている。

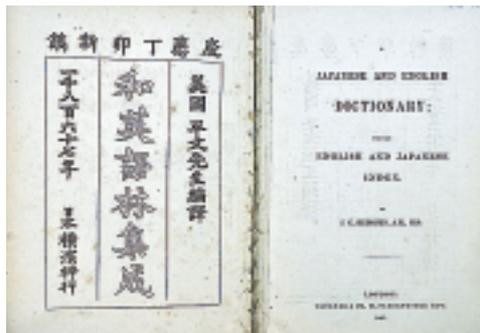
私

は、平成二十二年十月に出雲市立中央図書館を会場に開催された出雲地区3図書館による共同企画展示・講演会「異国からみたニッポン」に協力して、同年六月から九月の約三ヶ月間、この八

二七冊の悉皆調査を行った。この中には南方熊楠、岡倉天心、新渡戸稲造、倉田百三、野口米次郎その他の日本人の英語の著書や英訳書も含まれていることが分かった。

こ

の文庫を出版年次から見ると、一番古い一八五一（嘉永四）年にロンドンで出版されたW.G. Beasley著『Great Britain and Opening of Japan, 1834-1858』と云う日本の鎖国から開国に至る時代と大英帝国との関わりを述べたものから、一九八五（昭和六十）年出版の二冊の本まで、約百年余りの間に出版されたものである。但し、古いもの三十点ばかりには出版年の明示がない。これらの資料を内容面から大まかに分類してみると、「歴史・地理・紀行 四一九冊／文学 一五六冊／社会科学 一二二冊」など、ここに六九七冊が含まれている。

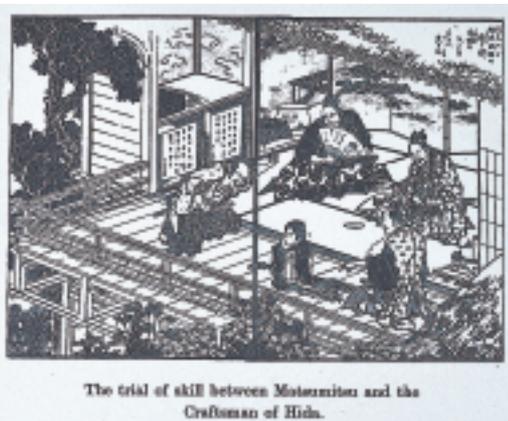


Hepburn, James Curtis
A Japanese and English Dictionary,
With an English and Japanese Index.
London: Trubner, 1867. 「和英語林集成」

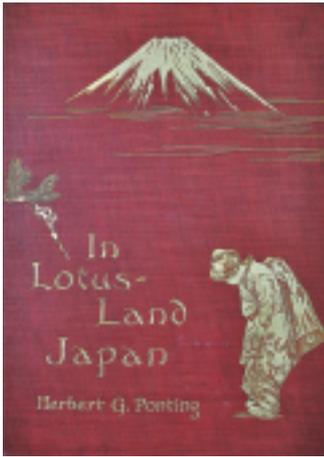
一

方、取り扱われている領域は非常に多岐にわたり、誠に貴重な資料がよくもこれほど集められたものだと感激を覚える。たとえば、文学では源氏物語、堤中納言物語、忠臣蔵、日本の詩歌、小泉八雲 (Yalcadio Hearn) の諸作品と書簡集、童話や民話などまでであるが、その中には百人一首や、フ

ランス人による「其角の俳句」、「諷刺俳句—川柳—」 「枕詞」などを扱ったものもある。語学では、一八六七年にロンドンで出版された有名なヘボンの『和英語林集成』(A Japanese and English Dictionary, with an English and Japanese Index) はもちろん、日本語と日本文化に関する豊かな知識に基づいて、日本語の仮名や漢字、書体について丁寧に解説したチェンバレンの『文字のしるべ』(A Practical Introduction to the Study of Japanese Writings, 1899) がある。またオランダ人のJ・L・ピールンが一九二六年にライデンで出版した『10,000漢字辞典』(10,000 Chinese-Japanese Characters) には、利用頻度の高い一万語の漢字が部首によって配列され、それぞれに音読み、訓読みと共に、語彙が英語で添えてある。能や歌舞伎関係のものも入っているが、「日本の色刷り版画」の歴史を辿ったものとか、教育、武士、芸者を扱ったものもある。陶器、磁器、七宝、木工を扱ったものの中には、六樹園飯盛（石川雅望）の文章に葛飾北斎が多くのを添えた本の英訳版『飛騨匠物語』(London, 1912) などという珍しいものもある。



Rokujuen (石川雅望1754-1830)
The Story of a Hida Craftsman. London:
Gowans & Gray, 1912. 「飛騨匠物語」



Ponting, Herbert George,
In Lotus-Land Japan.
London: Macmillan, 1910.
「蓮の王国・日本」

こ のコレクションには自らの日本探索の報告など、その印象やコメントを伝えるものが多いが、盆栽、生け花、茶の湯、舞踊、映画、柔道、空手、合気道、将棋、切手などの他に「和算の歴史」を述べた珍しいものや、黒船来航に関わる『ペリー艦隊日本遠征記』（一八五六）、日露戦争、日清戦争、第二次世界大戦で日本が降伏を決定する前後の楽屋裏を伝える軍事関係のものも見られる。

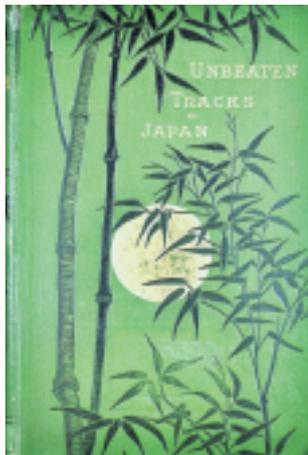
こ こで詳細に具体例を示すことは困難であるが、一八九一年刊のチェンバレンによる『日本旅行者ハンドブック』には、松江、出雲、杵築（大社）、隠岐、浜田などについて旅館の案内まで示して記述されている。

一 八七六年刊のW・E・グリフィス著『帝の帝國』は、「世界中でこれほど多くのおもちゃの店があり、あるいは子どもたちが喜ばず、いろいろな物の安売り市がたくさんある国は知らない。どの市の通りもことごとく店がたくさんあり、けばけばしいおもちゃを入れたクリスマススのストッキングと同じようにおもちゃがいっぱいあるばかりでなく、小さな町や村でも子ども用のバザールがひとつ、あるいはもつと多く見出せる。日本の子どもは、楽しませる、あらゆる物の最もすばらしい陳列は、有名な寺院の境内か、そこに通じる街路で見出せる」と述べている。

西 東文庫の中には、明治二十三年に米国雑誌社の取材で来日し、日本に関する著作を海外に発信し、そのまま日本で生涯を終えたラフカデー



Bird, Isabella L.
Unbeaten Tracks in Japan, 2 vols.
London: John Murray, 1880.
「日本奥地紀行」

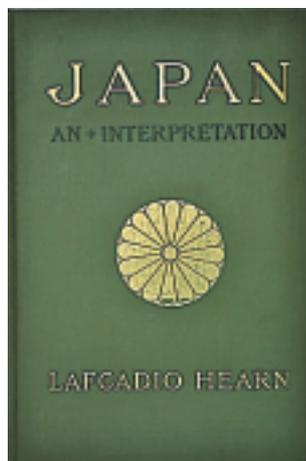


ポ ンディングは『蓮の王国・日本』（一九一〇）で、日本の女性が家の中で演ずる役割について、「彼女は独裁者だが、大変利口な独裁者である。実際に支配しているように見えないところまで支配しているが、それを極めて巧妙に行なっているので、夫は自分が手綱を握っていると思っっている」と記述している。

自 分のカメラを持って東北、蝦夷地（北海道）などを二千数百キロにわたって探索したイザベラ・バードは、『日本奥地紀行』（一八八〇）で、「私は子どもが大好きです。：子どもたちの遊びの中の自主性の教えられ方に感心しています。：蝦夷地では旅行者は本土で味わうよりもっと自由な雰囲気を感じます。それは空気がより自然によみなく流れているばかりでなく、人間にも動物にも十分なゆとりがあるからです。：ここでは半ば野蛮な生活ができます。川で泳ぐことができるし、山に登れるし、規則に違反しないで、森で火をたくこともできます」と語っている。

も う与えられたスペースが尽きたので、触れるべくして素通りしたものの方が多いが、このコレクションは、百年余りの間に西欧人の目で眺めた日本と日本人に関する報告書といってもよい貴重な資料の宝庫である。詳細な原文テキストやふんだんに添えてある写真や挿絵から、切腹、田植えをする女性等から、欧米世界での日本観が形成された資料群として、またこれらの資料等を通じて現代のわれわれを古い伝統に目を向けさせると同時に、現代日本の方向性を考えるよすがともなるであろう。

西 東文庫「購入の趣旨を踏まえ、これらの貴重な資料群が全国の各分野の研究者により、大いに活用されることを切に望む次第である。」



Hearn, Lafcadio
Japan: an attempt at interpretation
New York: Macmillan, 1904
「日本——一つの試論」

オ・ハーンの著作、書簡集、研究書など、五十点余りが含まれ、日本研究のコレクションの重要な位置を占めている。ハーンの旧蔵書を所蔵している富山大学図書館「ヘルン文庫」には、ハーンが東洋及び日本に強い関心を抱いて収集した、西東文庫と同一の書物を数多く見出すことができる。十四年の滞日後に出版された日本研究書「日本——一つの試論」はハーンの遺作となった。

* 詳細は、企画展示パンフレット「西東文庫—西洋から見た日本研究貴重コレクション—」（2010.10）を参照のこと

◆共同企画展示・講演会◆

出雲・石見の人々と

近世文学

(日本近世文学会島根大学大会
共同企画展示会)

今年度の附属図書館本館の企画展示は、日本近世文学会島根大学大会事務局との共催により、出雲・石見地方ゆかりの近世文学を紹介する企画展示を行いました。同学会が島根大学で開催されることに合わせたもので、開催期間中は二三名の入場者で賑わいました。

『古事記』にみえる「八雲立つ出雲八重垣妻籠めに八重垣つくるこの八重垣を」の歌が、『古今集』で、最初に詠まれた歌だと揚言されたことにより、出雲は和歌発祥の地とされています。また、柿本人麻呂は『万葉集』において石見国の風土を詠んでいます。このように、古来より出雲・石見地方は文学にゆかりの深い風土でした。近世においても積極的に文学作品を享受する文化が育ち、また、自ら和歌・実録等を創作する人たちが現れるなど、文学活動が盛んに行われていたことが現存する資料からうかがえます。その流れは近代へと受け継がれ、山陰の漢詩壇が形成されたり、稀書を収集する教養人も現れました。

この企画展示では、本館所蔵資料を中心に、近世の出雲・石見の人々と文学との関わりを「収集家」、「読者」、「作者」という三つの視点で構成しました。

「収集家」のコーナーでは、浮世絵や美術工芸の研究者として著名な、松江市出身の桑原羊次郎氏が収集したコレクションである「桑原文庫」を紹介し、その中から、近世文学の版本・写本を中心とした資料を展示しました。「読者」のコーナーでは、「堀文庫」「熊谷家旧蔵資料」の中から、貸本屋の書籍や近世の大衆文芸としてよく読まれた草双紙類などを、「作者」のコーナーでは、近世出雲・石見地方で書かれた文学資料の中から、実録、地誌、和歌などの資料を展示しました。

また、会場には近世出雲・石見地方の国絵図、松江城下町絵図もあわせて展示しました。絵図の展示は珍しかったようで、興味深く覗き込む姿が見受けられました。



展示会ポスター



展示会場



■企画展示

期間 平成二十二年十一月十七日(水)～二十三日(火) 午前九時～午後五時
会場 島根大学附属図書館 三階会議室

「異国」からみたニッポン
 —「西東文庫」(島根大学
 医学図書館蔵)をもとに—
 (3)図書館合同企画展示・講演会

島根大学医学図書館、島根県立大学短期大学部出雲キャンパス図書館、出雲市立図書館では、平成十九年度に相互協力協定を結び、各種事業を行っています。今年度はこの一環として、出雲市立出雲中央図書館において企画展示及び講演会を開催しました。

講演会は、初めに島根県立大学の小泉凡先生による「来日外国人のみた明治日本の面影」と題する基調講演があり、ラフカディオ・ハーンら来日外国人の日本での生活と、を通して見た当時の日本人の行動様式についてお話しいただきました。続いて、島根大学名誉教授の常松正雄先生から、「日本に向けた異国の目」と題し、西東文庫の紹介がありました。イザベラ・バードの『日本奥地紀行』(二八八〇)などの中から、興味深い文章を抜き出して解説していただきました。

この後、島根県立大学専任講師のクリス・ラング氏(アメリカ合衆国出身)と、出雲市国際交流員のロバート・バートン氏(アイルランド出身)を交え、四人で「昔のニッポン、今のニッポン」と題したパネルディスカッションを行いました。お二人の日本でのエピソードを交えながら、フロアとの活発な意見交換もあり、日本人と外国人の文化、考え方の違いなどを感じ取る良い機会となりました。

同時に開催された展示会では、西東文庫所収の原書、収録写真や地図のほか、関連邦訳書等を初めて一般に展示公開しました。講演会後のギャラリートークでは、珍しい資料に参観者から熱心な質問が多く出されていきました。講演会・展示会を通じて一七〇名の入場者があり、アンケートには今後とも地域向けの企画開催の要望が多く寄せられていきました。



講演会



展示会場



パンフレット



ポスター

■企画展示

期間 平成二十二年十月三十日(土)～三十一日(日) 午前十時～午後六時
 会場 出雲市立出雲中央図書館二階 第一会議室

■講演会

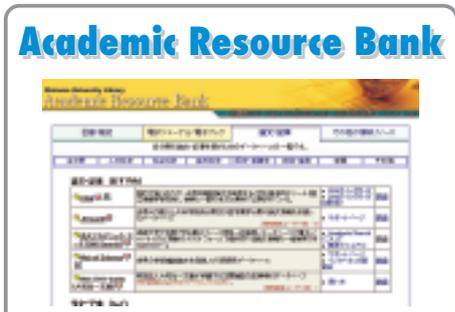
期日 平成二十二年十月三十日(土) 午後一時半～午後四時
 会場 出雲市立出雲中央図書館二階 多目的室

- 基調講演 「来日外国人のみた明治日本の面影」 島根県立大学教授 小泉 凡
- 西東文庫紹介 「日本に向けた異国の目」 島根大学名誉教授 常松正雄
- パネルディスカッション 「昔のニッポン、今のニッポン」

- 小泉 凡 常松正雄
- クリス・ラング(島根県立大学講師)
- ロバート・バートン(出雲市国際交流員)

情報活用ステップアップ講座②

—レポート・論文作成、研究に役立つデータベースを使いこなそう—



Academic Resource Bank

電子リソース (各種データベース) の窓口
図書館HPから、まずはここにアクセス!

一口に学術情報と言っても、その種類は様々です。自分に必要な文献情報が、どのデータベース(以下、DB)に収録されているのか、また、どのように検索すればよいのか、はじめは戸惑うことも多いと思います。

そんな時に便利なのが、複数のDBを一括検索できる島大アカデミック・サーチ。文献探しのポータル(入口)として活用できる便利なサービスです。また、探すだけでなく、探し当てた文献そのもの(一次情報)の入手を容易にするShimaneLINKS(リンクリゾルバ)や、たくさん集めた文献情報を簡単に管理できるレフワークスなど、ほかにも便利なツールがたくさんあります。

使いこなせれば、あなたの学習・研究がはかどること間違いなしです。

島大アカデミック・サーチ 学術情報まとめて検索!!



こんな時に使うと便利だよ!

- どのDBを使って探したらいいかわからない
- 複数のDBを使うのは面倒だ
- 研究の手がかりに、とりあえず情報を集めたい
- 検索に時間をかけたくない

日本語文献

- CiNii
- JDream II *など
- *設定準備中

英語文献

- Web of Science
- AGRICOLA
- PsycINFOなど

<TOP画面>



Shimadai Academic Search

Basic Search | Advanced Search | 検索のヒント

カテゴリを選択

<検索結果画面>



Shimadai Academic Search

検索結果の絞り込み

データベースごとの検索結果

各タイトルをクリック

島大アカデミック・サーチで
検索できるデータベースは約40!!

医学文献

- PubMed
- CINAHL
- EBMRなど

フルテキスト

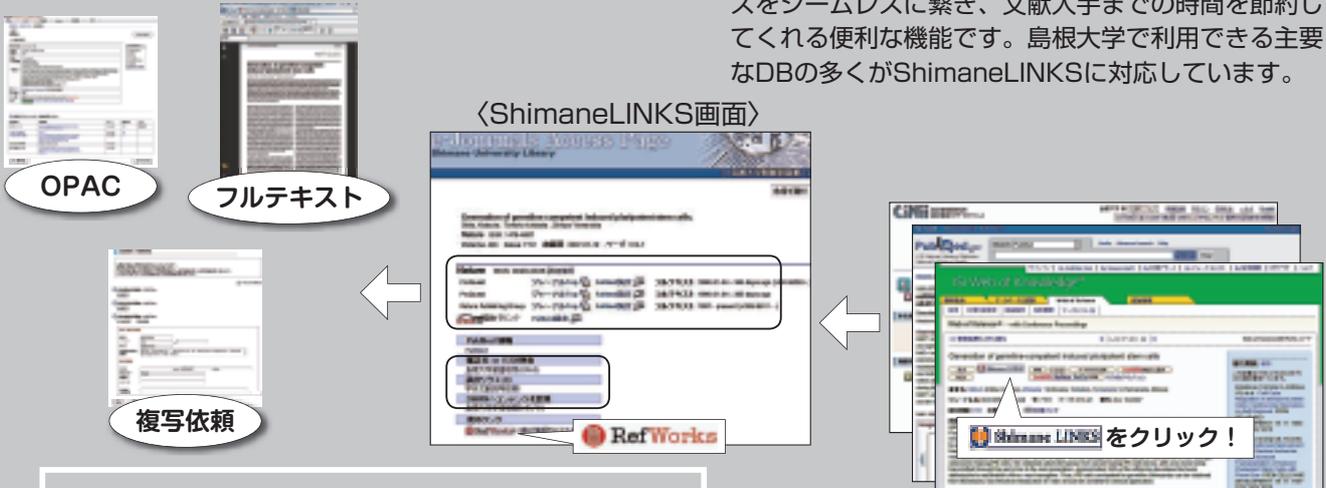
- 電子ジャーナル
- 電子ブック
- リポジトリなど

所在情報

- 島大OPAC
- WebCat Plusなど

<各DBの詳細画面>

学内で利用できる電子ジャーナルがない場合は、同じ画面からOPACで所蔵を自動検索できるほか、検索した論文データをそのまま文献複写依頼画面に流し込むこともできます。



ShimaneLINKSは、文献DBの検索結果から、フルテキストを始め、図書館の各種サービスへのリンクを自動で生成します。この仕組みはリンクリゾルバと呼ばれ、それぞれ別々のサイトで提供されているサービスをシームレスに繋ぎ、文献入手までの時間を節約してくれる便利な機能です。島根大学で利用できる主要なDBの多くがShimaneLINKSに対応しています。

私のように忙しい研究者にとっては、限られた時間のなかで膨大な情報から必要な文献を入手するのに、もはや欠かせないツールとなっているんだ。君も使ってみないか？

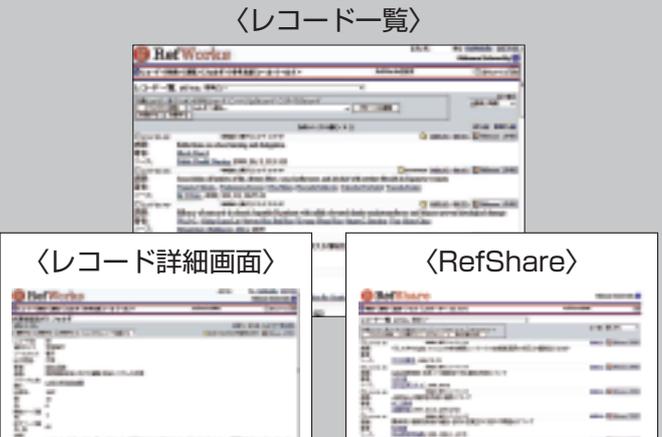
ShimaneLINKS
文献入手を裏で支える！

RefWorks
文献情報まとめて管理！

せっかく文献を集めても、その管理って結構めんどろ。そんな時に役に立つのがRefWorks（レフワークス）よ。たくさんの文献情報をフォルダに分けて管理できるし、自宅からも使えるの。私は、ゼミの資料を友達と共有できる機能が気に入っているわ！



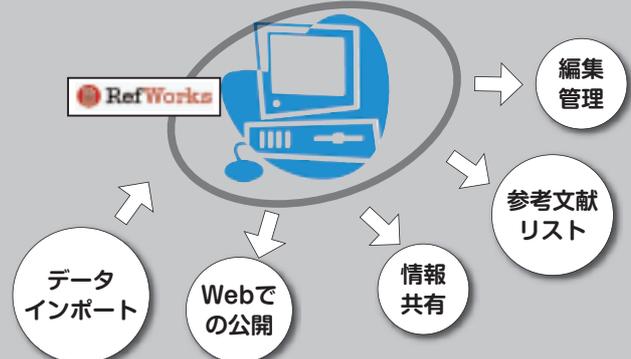
初めて使う場合は、アカウント登録が必要です。氏名・所属・メールアドレスなど、必要事項を入力してください。



- 卒論やレポート作成に最適！**
- ・ DBの検索結果やShimaneLINKSから文献情報を保存
 - ・ カテゴリごとにフォルダを分けて簡単管理
 - ・ RefShareを使って、文献リストの共有
 - ・ 参考文献リストの作成
 - ・ Word文書への文献情報の挿入（Write-N-Cite機能）

利用者の声

- 総合科学研究支援センター 教員
- ・ 学生が卒業論文を書くときに使う文献管理ツールとしてはちょうどよい。
 - ・ どのPCからもアクセスできるので気軽に利用できる。
 - ・ 図書館のサービス（ShimaneLINKS）やWeb of Knowledgeのような論文検索サービスと連携して使うことで単体の文献管理ソフトを超える便利さがある。





図書館員のお仕事

遡及入力 —二十年の軌跡—

企画・整備グループ

福山栄作

1. はじめに

これまで図書館では遡及入力を進めてきましたが、本館が所蔵する新制島根大学及び旧制松江高等学校（旧制松高）の資料について、データ入力を終えることができませんでした。そこで、これまでの遡及入力をまとめてみることにしました。なお、医学図書館については、大学統合時に全蔵書の遡及入力が終了しています。

2. 遡及入力とは

図書館の蔵書を調べるためには、OPAC(Online Public Access Catalog)とゆう蔵書検索システムを使いますが、現在のようにコンピュータが普及する以前は、目録カードが使われていました。目録カードには分類・書名・著者名・件名といった種類があり、現在も一部が残されています。

島根大学では一九八八年にOPACが導入され、開始時には閲覧室に配架されていた約七万冊分の図書が検索可能でした。しかし、書庫や研究室にある資料はまだ検索できなかったため、目録カードと併用する形で利用されていました。遡及入力はこの未入力の蔵書を登録し、検索や貸出に利用できるようにする作業です。また法人化後は、資料のリユース

や除籍など、資産管理を適切に行うためにも必要な仕事となっています。
この作業は、全国の大学図書館が共同で構築しているNACSIS-CATを利用しており、本学で所蔵する資料を、図書館間相互貸借により全国のNACSIS参加機関でも利用できるように整備を進めています。



新制島根大学・旧制松江高等学校の目録カードケース

3. これまでの経緯

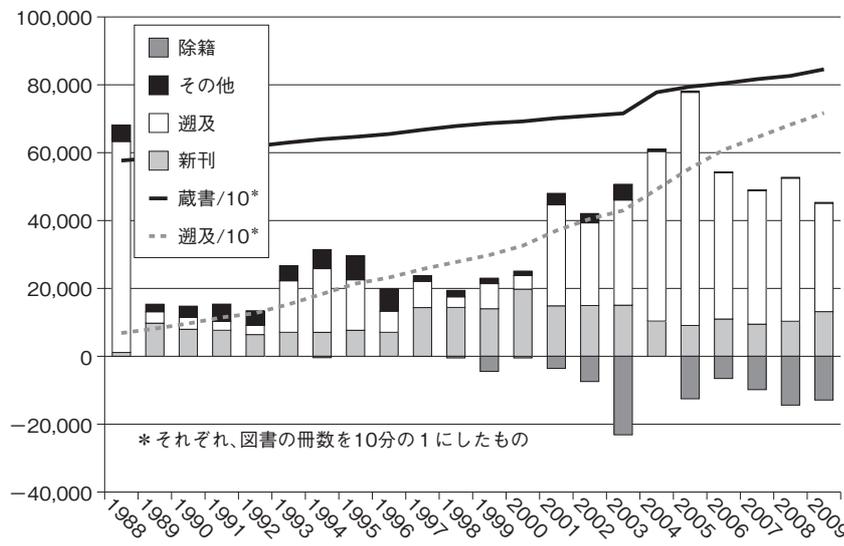
一九八八年以降に購入された資料は、購入時にOPACに登録し検索できるようになっています。それ以前に購入された資料は、研究室から返却される際に登録を行ってきました。二〇〇一年度から遡及入力経費が措置されたことにより、計画的な遡及入力を進めることができ、登録数も増えています。洋資料の遡及入力も開始しました。

二〇〇二年度には蔵書数の増加に伴う書庫の狭隘化の問題があり、除籍を開始しました。除籍対象とした資料は、図書館で重複する資料でほとんど利用が無いものです。この重複資料については、遡及入力の複本（重複資料）確認の際に、リユース貸出対象として一定期間リストを公開しています。

二〇〇五年度に遡及入力の件数が増えているのは、製本データの登録を行ったためです。これによ

り、電子ジャーナルや機関リポジトリなど、論文データが利用可能な製本雑誌を整理することができました。
二〇〇六年度には研究室貸出資料の遡及を開始し、現在、研究室や資料室にある資料も全て検索が行えます。これらは図書館で所蔵している資料より専門性が高く、有用なものが数多くあります。
二〇〇九年度には、継続的に遡及入力を行っている書庫一階の資料全ての登録を終わり、また、本学の前身である旧制松高の和資料についても、ほぼ入力を終えました。一九八八年当時は全蔵書の一割程度しか検索できない状況でしたが、二〇一〇年には

遡及入力冊数と蔵書冊数及びOPAC登録数の推移



全蔵書の九割にあたる、約七一万六千冊の資料を検索できるようになっています。

4. 作業の変化

過去に受け入れられた遡及入力対象資料は、現在の基準と異なっていたり、使用したシステムも数年毎の機種更新に伴い変わっていたりしています。一九八八年に一括登録されたデータは簡略書誌であったため、以後、複本登録時等に継続的に目録データの修正を行っています。一部のデータは精度の低いまま残っています。

初期の遡及入力では複本の登録を行っていませんでしたが、二〇〇〇年以降は複本資料も全て登録を行うようになり、これを除籍処理に繋げることができるとなりました。

年代による受入基準の変化により、法人化以前に消耗品扱いとされたまま、資産として登録されていないものがあります。また、以前は資産だったものが途中から消耗品として扱われるようになったため、資料体系が崩れてしまっているものもあります。これらの資料は再受入処理を行い、資産として取り扱うようにしています。

資産であるかどうかの確認は蔵書印と登録番号で行いますが、前身校からの移管や管理換といった処理が行われているものがあり、これらの全貌をデータベース化したものを現在の資産管理の基本とし、遡及入力でのデータチェックに使っています。元になる台帳は、七系列十一種類になります。

登録番号は手書きやナンバーリングで記載されていますが、一部にミスもあり、確認と修正を行いながらの作業になります。番号がずれていて、相当数の番号修正が必要になったこともありました。

洋資料では、馴染みのない言語の資料も出てきました。NACSIS-CATを使うことで他大学が登録したデータを利用できますが、すべてが登録されてい

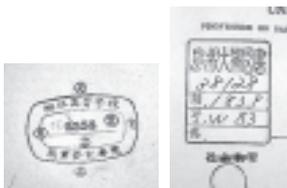
るとは限りません。

研究室貸出資料は、貸出カードを元にして現物確認を行いながらデータを作成しましたが、研究室での作業を伴うため、先生方との時間調整が大変でした。使いすぎでぼろぼろになっているものは、図書館の複本と交換したこともありました。

旧制松高資料は請求記号の体系が現在使っているものと異なるため、すべての資料について再付番を行う必要がありました。また、資料自体も相当古いため（一九五〇年以前）補修しながらの作業となりました。この中から、卒業生である永井隆氏のサイン入り寄贈本など貴重なものが発見され、本年九月に、旧制松高資料の遡及入力終了に合わせてミニ展示会「始まりは旧制松高」を開催しました。



遡及入力で使用した図書原簿



図書に記載された蔵書印



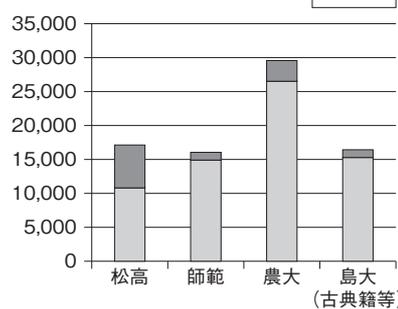
整理された松高図書と発見本

5. 残る一割

遡及入力は、利用の多いものから行って来ました。現在残っている資料は、前身校である島根師範学校、島根農科大学から引き継いだ資料と、貴重書を中心とする古典籍資料で、本年度より入力を開始しています。本学で所蔵する全ての資料をOPACで検索できる日が、もうすぐやってきます。

(ふくやま えいさく)

未入力資料の状況



生々しく書かれています。さらに、警察側の会話の中に少年たちの考え方に関するやりとりがありますが、「少年たちの考えている」とは、我々の想像を超えている（全く異なっている）という内容は、作者自身の考え方も含まれているのではないかと感じました。

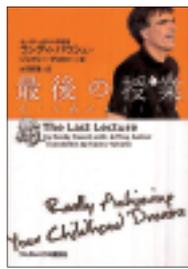
東野圭吾の作品は、他にもガリレオシリーズ、加賀恭一郎シリーズなど数多くの作品があります。ぜひ読んでみてください。

【本館・一階閲覧室 913G/H5】
(ついで りゅうせつ)

命の重さ、生きる意味を真剣に考えたことがありますか。生きていくうえで大事なものは、ちょっとした心の持ちようなのかもしれません。悩んで苦しんで、うしろもいない時に、一冊の本に救われることもあるのです。

ランディ・パウシュ、ジェフリー・ザスロー著
『最後の授業』—ぼくの命があるうちに—
ランダムハウス講談社 2008・9
9784270003503

医学図書館職員 宇佐見真知子



命数ヶ月と宣告された、カーネギーメロン大学教授ランディ・パウシュの「子供時代に抱いた夢の実現」と題した「最後の授業」がネット動画でアップされ、死を目前にしながら生きることに、前向きにユーモアを交えて語る姿が大きな反響を呼びました。本書はその授業の続きでもあり、成長を見届けられない幼い子供たちへのメッセージでもあります。

夢を叶える道のりに障害がたちはだかったとき、僕はいつも自分にこう言い聞かせてきた。レンガの壁は僕の行く手を阻むためにあるのではない。その壁の向こうにある「何か」を自分がどれほど真剣に望んでいるか証明するチャンスを与えている。

彼は、人生の困難を壁に例えて、それを乗り越える強い意志と、ひたむきに夢に向かう姿勢があれば夢は叶うと言います。生きることの大切さ、喜び、夢を持つこと、それを実現させることを語ったこの講義は、ともすると先行き不安ばかりがよぎる、現代の人たちへのメッセージとして心に残るものです。

もし自分が死を予告されたら絶望や悲しみでいっぱいになり、「生きる」としてではなく、「死」に向かうことばかり考えるのではないだろうか：ランディは言います。

現実を変えられないから、現実の受け止め方を変える。考え方次第で人生をこんなに変えられる。死ぬときをあらかじめ知ることのできたことには感謝している。家族の将来のための準備もできず、最後の講義もできた。ある意味で、癌になったから「自力でフィールドを去る」ことができる。

人生の最後に子供たちに伝えたかったことを講義という形で表し、多くの人たちに感動を与え、子供たちが成長過程で道に迷った時、父親の言葉として大きな助けになると思っています。ランディの生きること、夢の実現に向けての力強いメッセージは、今日があり明日も当たり前になってくると思いがちな自分に、どう生きるかを考えさせてくれる一冊でした。

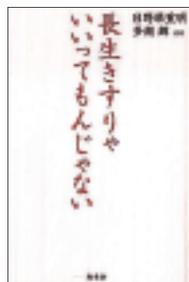
【本館・一階初年次図書 289.3/P28】
【医学図書館・2階図書 289/PAU】
(ついで 真知子)

日野原重明・多湖 輝共著

『長生きすりゃいいじゃん』

幻冬舎 2010・5 9784344018235

医学部・看護学科3年 矢内 舞



「いのち」は目には見えないもので、「からだ」とは別のものです。いのち

は心臓ではなく、目に見えないものです。「いのち」は風と同じように、目には見えないけれど、一人ひとりに与えられたものです。自分に与えられ、自分が使うことができる時間です。

現在、私は病棟実習中ですが、担当する患者さんは高齢の方が多く、長い人生を生きてこられた方ばかりです。それぞれの患者さんに生き方やいのちに対する思いがあること、その重みは人が生きてきた長さや周りの環境が大きく関係してくるということ、それらをも忘れず関わっていく大切さを、この本を読んで改めて考えました。病気や災害、大切な人との別れ、人生のどん底に陥ったと思う時もあるでしょう。そんな時に元氣の出るひとこと。「人間はどんな不幸にも耐えることができるように造られているのです。」

どんなに辛いことがあっても、人は必ず幸福を感じることが出来ます。人生の大先輩の言葉です。間違った来られ、今も成長し続けている大先輩からの、勇気の出る明るくやさしい言葉がたくさん詰まっています。

考えていても答えが出ないこと、これからどんな生き方をすればいいのか、この本を読めば何かしらヒントが見つかるはず。逆境が成長の糧、ストレスが健康の素！ 体と頭の達人、あわせて一八二歳・幸福の極意。人生勉強に役立つ一冊!! ぜひ読んでみてください。

(ついで 舞)

鷺田清一 著

『待つ』

角川学芸出版 2009・8 9784047033962

医学部・看護学科3年 林 倫可



私は、この年になってようやく「時間」が解決してくれる」ということが納得

されるようになった。大切な誰かとズレが生じ、後戻りできなくなったこと。恋愛や失恋の中で様々なものが複雑に絡み合い、ただ受け入れるしかなかったこと。良くも悪くも現実の自分を目的の当たりにし、理想の自分と程遠かったこと：その時の自分ではどうしようもないことを沢山経験したように思う。そしてこの本との裏には「待つ」という行為が隠されていたことを気づかせてくれた。気づいたことにより、それらどうしようもないことへの視野が広がり、受け入れ方が分かり、前に進めた。「待つ」ということ無くしてそれらの経験の成熟は成り立たず、きっとこれから先の人生の方がそういう経験がずっと沢山あるのだろう。私はまたそういう経験で悩むだろうが、悩む度にこの本に立ち戻り、考え直したいと思う。

著者が語っているとおり、現代社会は「待つ」ということをしなくなり、できなくなつた。そして今私は「何を」待つでもなく、「何かを」待っているこの感覚。そんな現代だからこそ、この感覚があるからこそ、焦らずじっくりと「待つ」ということはどうということなのかを考えていきたいし、一緒に考えていきたい。

綺麗な文章なので読みやすく、女性の立場からはもちろん医療者からの立場でも楽しめる一冊。患者さんを守るために、患者さんの言葉や態度、自立を待ってみませんか。ぜひ一度、お試しください。

(ついで 倫可)



自 著 紹 介

**市民大学の誕生 ..
大坂学問所懐徳堂の再興**

竹田健二 著

大阪大学出版会 2010・2

懐徳堂をご存知ですか？ 懐徳堂とは、江戸時代の大阪にあった漢学（儒学）の学校です。享保九年（一七二四）に創立され、五井蘭洲、中井竹山、中井履軒、山片蟠桃といった学者を輩出しました。明治二年（一八六九）に閉校となりましたが、明治末に顕彰運動が起こり、明治四十三年（一九一〇）懐徳堂記念会が設立されます。同会はその後財団法人となって講堂（重建懐徳堂）を建設、専任の教授も迎えて、様々な市民向けの講義・講演を多数行いました。講堂は戦災で焼けましたが、同会は大坂大学と協力し、今もなお市民大学としての活動を継続しています。

一〇年ほど前から、私は大阪大学附属図書館に所蔵されている懐徳堂・重建懐徳堂関係の資料調査に携わっています。その中で、懐徳堂の学主を歴代務めた中井家の子孫・中井木菟麻呂の記した『懐徳堂紀年』に出会いました。『懐徳堂紀年』は、懐徳堂の歴史をまとめた書物ですが、どういふ経緯で書かれたのが当初まったく分からず、調査・研究を始めました。そうした活動の成果から生まれたのが本書です。すべては図書館から始まりました。

（教育学部 言語文化教育講座）

教授 竹田健二 たけだ けんじ

【本館1階 閲覧室 372.105/TA59】

教員寄贈図書紹介（平成21年8月～平成22年11月）

加川 充浩（法文学部）	地域福祉と福祉行政：住民・専門職による地域生活支援と主体形成
居石 正和（法文学部）	府県制成立過程の研究
出口 顯（法文学部）	レヴィ=ストロース：入門のために 神話の彼方へ（KAWADE道の手帖） 人類学的比較再考（国立民族学博物館調査報告90）
長岡 真吾（法文学部）	木と水と空と：エスニックの地平から
廣嶋 清志（法文学部）	地域人口からみた日本の人口転換
芦田 耕一（法文学部）	人物しまね文学館
林 弘正（法務研究科）	法学：法制史家のみた [追補版]
玉樹 智文（法務研究科）	史料債権総則
作野 広和（教育学部）	Emerging new industrial spaces and regional developments in India (Japanese studies on South Asia) 東出雲町地誌（人文地理学教育・研究叢書）
富澤 芳亜（教育学部）	グローバル化と中国（シリーズ20世紀中国史）
藤井 浩基（教育学部）	島根の民謡：歌われる古き日本の暮らしと文化 音楽教育学の未来
竹田 健二（教育学部）	市民大学の誕生：大坂学問所懐徳堂の再興 懐徳堂の歴史を読む：懐徳堂アーカイブ
長谷川博史（教育学部）	戦国大名尼子氏の研究 環境歴史学の風景
高瀬 彰典（教育学部）	小泉八雲の世界：ハーン文学と日本女性
福田 哲之（教育学部）	竹簡が語る古代中国思想：上博楚簡研究
槇原 茂（教育学部）	由緒の比較史
富岡 治明（医学部）	Current topics on the profiles of host immunological response to mycobacterial infections 2009
武田 育郎（生物資源科学部）	よくわかる水環境と水質
谷口 憲治（生物資源科学部）	中山間地域農村経営論
大藪 正彦（外国語センター）	アクセス独和辞典 第3版
家島 明彦（教育開発センター）	現代思想のレポリビューション
野本 晃史（名誉教授）	山陰の鉄道：野本末治郎の鉄道史

研修報告

島根県大学・高等専門学校 図書館協議会職員研修会

資料利用担当 小豆澤悦子

日時：平成22年9月16日(木)～17日(金)
会場：島根県立大学(浜田キャンパス)

今回参加したこの研修会は、これまでの研修会にはないような、楽しいアイデアと心づかいに溢れたものでした。テーマのひとつは、「学生と向き合う」です。これまで図書館は、あまりにも管理する側の都合だけで運営してこなかったでしょう。利用者としての学生の意見や希望に積極的に向き合う姿勢が足りず、結果として学生から遠い存在になっていたように感じます。この研修会には、参加大学の図書館で図書委員として活動する学生たちも参加し、活動内容の報告や意見発表を行いました。「図書館での活動は非常に楽しい。働くことに対しての自覚や責任感が育ち、自分のことが周囲に認められることで充実感、満足感がある。」とは全員の一致した意見でした。

島根県立大学は浜田市の高台に位置し、キャンパスからは日本海を眼前に眺めることができます。水平線に沈みゆく美しい夕陽をバックに、懇親会が始まりました。学生たちはこの懇親会にも出席し、他館の職員と情報交換しながら、立派にホスト役を務めていました。誰もが笑顔で対応してくれ、おもてなしの心を感じさせてくれました。学生協働はメリットもデメリットもありますが、こんなにしつかりとした学生が育ってくれるなら、デ

メリットを差し引いても残っていくものは大きいようです。

流行りのラーニング・コモンズも、学生が利用しやすいことが第一です。学生の希望やアイデアをうまく取り入れることで、これまで気づかなかった別の角度から、利用しやすい図書館をつくっていきけるのではないかと思えてきました。「予算が少なくても、できることはあるのです!」という発表内容に、目からウロコが落ちた気がしました。(あづきざわ えいこ)

第51回中国四国地区 大学図書館研究会

資料利用担当 錦織亜希子

日時：平成22年10月14日(木)～15日(金)
会場：広島大学
学士会館レセプションホール

この研究会は中国四国地区の国公私立の大学図書館が集まり、毎年開催されているものです。今年も広島大学で、「教員との連携による元気な大学図書館の作り方」をテーマにして開催されました。

一日目は、まず基調講演として、三重大学の長澤多代氏から図書館と教員との連携についてお話をいただきました。大学教育改革から学習支援の具体例まで盛りだくさんの内容でしたが、教員との連携を目指す際のポイントをわかりやすく示して頂き、大変興味深いものでした。また、千葉

大学の方々による講演では、学科ごとの教員の窓口となる図書館員、「リエゾン・ライブラリアン」という考え方を教えていただきました。

各種発表・報告では、一年目の職員も発表できるブラウジングコーナーにて、私も発表させていただきました。そして「学生支援サービスの向上を目指して」と題して、平成二十二年度からの取り組みである「初年次コーナー」と「図書館コンシェルジュ」について発表しました。

二日目は二つのテーマに分かれて分科会が行われ、私は第二分科会に参加しました。指定図書や授業との関わりについて意見が交わされ、教員との連携は不可欠だが、その実現に向けては図書館からのアプローチを継続することが重要であるという意見がまとまりました。またこの分科会に関連して、各図書館で作成されたリテラシー教育用資料が会場に持ち寄られ、実際に手にとって見てみる機会があり、とても参考になりました。これらの資料は、本研究会のHP上で共有されることになっていきます。

研究会終了後、広島大学図書館を案内していただきました。中央に大きな吹き抜けのある閲覧室や広い書庫、新しくできたラーニングコモンズ等、他大学の図書館を見学する良い機会となりました。

二日間を通して、様々なことを勉強できただけでなく、多くの職員の方とお話することができました。そして他の図書館でも、同じようなことで悩んだり、工夫を凝らしていることが分かりました。私も図書館職員の一人として早く機能できるよう、今回得た知見を生かして頑張っていきたいと思いました。(こづつこ あいか)

イベント&ニュース

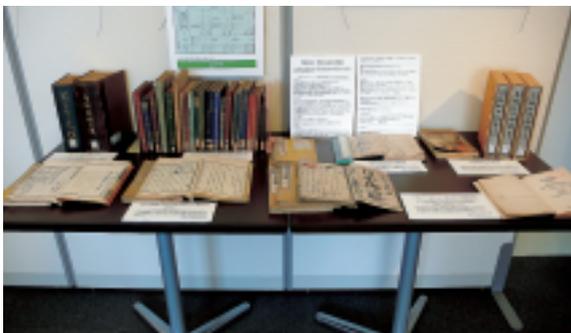
2009（平成21年）8月～2010（平成22年）10月

デモやパネルディスカッションを通じて、活発な意見交換が行われました。



◆企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」 (2010.2.20～4.16)

島根大学ミュージアムとの共催で、旧制松江高等学校時代に外国人教師宿舎だった旧奥谷宿舎を会場に、展示会を開催しました。NHKのニュースで放映されたため、ギャラリートークには大勢の方が詰め掛けてくださいました。3月からは会場を本館に移し、4月中旬まで開催しました。



◆図書館システム更新 (2010.3)

図書館の業務システムを更新し、新しいシステムでの業務とサービスを開始しました。

◆島根県大学・高等専門学校図書館協議会職員研修会 (2010.3.11～3.12)

「学生用コレクションの整備とリポジトリの運用」をテーマに、筑波大学附属図書館から講師を招いて開催しました。島根大学をはじめ、島根県立大学、同短期大学部松江キャンパス及び松江高専から19名の参加者がありました。

◆授業関連図書コーナー (2010.4)

初年次教育プログラムの授業を中心とした授業関連図書のコーナーを新設しました。4学部18科目について、131タイトルの図書を備え付けています。

●本館

2009.8

◆インターンシップ2009 (2009.8.31～9.11)

昨年に続いて1名の学生を受け入れました。資料の受入、目録作成、カウンターで利用者に対応、その合間に書架の整理や図書の移動作業など、きつと息つく暇もなかったことでしょう。専門用語に苦戦しながらも、2週間笑顔で乗り切ってくれました。お疲れ様でした。きつと将来、何かの役に立つと信じています。

2009.9

◆中四国地区国立大学図書館・貴重資料パネル展示会 (2009.9.29～10.18)

岡山市デジタルミュージアムで、岡山大学、広島大学、香川大学、鳴門教育大学、島根大学の各図書館が参加し、「教育」をテーマにした貴重資料のパネル展示を行いました。本学からは、松江時代のラフカディオ・ハーンの教師としての姿と自筆書簡を紹介しました。終了後はこのパネルを使い、本館内で展示を行いました。

2009.10

◆中学生職場体験2009 (2009.10.1～10.2)

松江市立湖南中学校の生徒3名が職場体験に訪れました。大学生に囲まれ緊張気味でしたが、書架や机を掃除したり、書庫内の図書の移動作業などを頑張ってくれました。

◆3館合同企画展示・講演会「江戸を旅する 明治に学ぶ」

(展示会 2009.10.3～10.11)

(講演会 2009.10.4)

島根県立図書館、松江市立図書館、島根大学附属図書館の3館合同企画は、今年度、島根大学附属図書館を会場に開催しました。展示では特に出雲・石見・隠岐の国絵図に力を入れ、講演会は学内に完成したばかりの大学ホールで行うことができました。展示会には約400名、講演会には100名を超える来場がありました。

◆第5回図書館蔵書リユース市

(2009.10.30～11.1)

恒例のリユース市は、約6,000冊と前年の半分程度の冊数だったにもかかわらず、3,000冊近い図書を販売できました。毎年楽しみにしてくださる方も多く、笑顔で帰って行かれる姿に、学生スタッフたちも充実感を味わっています。

2009.11

◆シンポジウム・遺跡資料リポジトリ

(2009.11.21)

本学は、国立情報学研究所最先端学術情報基盤整備(CSI)委託事業「遺跡資料リポジトリ」プロジェクトの代表機関を務めています。今年度は「遺跡資料リポジトリ一発掘調査報告書の流通促進のために」をテーマに、大阪大学附属図書館でシンポジウムを開催しました。文化庁をはじめ関係者約50名が出席し、講演、事例報告、

2010・6

◆マスコットキャラクター誕生 (2010.6)

図書館のマスコットキャラクターを作成し、利用者から愛称を募集しました。審査の結果、「みいなちゃん」「けんさくくん」「ライム博士」と命名しました。みなさん、可愛がってくださいね。

◆学生選書エントリー (2010.6.22~7.11)

学生に図書を推薦してもらう期間限定企画で、期間中53タイトルのエントリーがありました。後日、このエントリーされた図書と選書ツアーで選んだ図書を集め、重複や内容などについて話し合い、最終的に購入する図書を決めてもらいました。

◆学生選書ツアー (2010.6.23)

今回の参加者は3名と少なめでしたが、約1時間半で100冊ほどの本を選んでもらいました。

2010・7

◆七夕飾りに願いをこめて (2010.7.7~7.28)

本館玄関ホールに笹竹と短冊を用意したところ、予想を大きく上回るたくさんの願い事が寄せられ、つりさげるスペースがなくなるほどでした。短冊に書かれた内容は、「恋愛」「就職・将来」「部活」「お金」「とりあえず幸せに」などなど。意味不明なものも含めて、願いが叶うには多少の努力も必要のようです。



◆企画展示「始まりは旧制松高」(2010.7~11.)

島根大学の前身である旧制松江高等学校開校から90年を迎えたのを期に、その間の附属図書館の変遷をたどる展示を行いました。すっかり色の褪せた写真や目録カードなど、職員にとっても懐かしいものが並びました。

2010・8

◆インターンシップ2010 (2010.8.30~9.1)

今年度は実質1日半という短期間でした。図書館の概要の説明を受けた後、実務の基礎を学んでもらいました。

2010・9

◆「ふくろうくん」による史料燻蒸 (2010.9)

古書籍類の燻蒸処理を行うため「ふくろうくん」を購入し、館内で初めて燻蒸処理を行いました。今後は寄贈資料などについて気軽に処理できるようになりました。

◆学生による学習成果展示「七色八雲」(2010.4.19~6.)

館内展示コーナーを学生にも開放しました。初回は、法文学部言語文化学科の学生による演習成果作品の展示を行いました。小泉八雲の作品を題材に、各自が撮影した写真を組み合わせて本を作る授業です。プロ顔負けの素晴らしい作品と展示方法で、ギャラリーのような雰囲気になりました。



◆雑誌無料提供 (2010.4.27~28)

恒例の不用雑誌の無料提供会を開催しました。人気のある雑誌はあっという間になくなります。準備した800冊あまりの雑誌のうち、残ったのは300冊ほどでした。



2010・5

◆まちなか大学祭で蔵書リユース市 (2010.5.16)

昨年に続き、松江市殿町周辺で開催された「まちなか大学祭」に、不用となった図書館の蔵書約2,000冊を提供しました。島根大学の目玉企画として、学生スタッフが準備や販売に携わってくれました。



2010.3

◆看護学科卒業生から図書の寄贈 (2010.3.18)

平成21年度看護学科卒業生から、卒業記念として図書を寄贈していただきました。卒業式後の謝恩会で、内田看護学科長に目録が贈呈されました。

2010.4

◆医学図書館に改称 (2010.4.1)

平成15年10月の大学統合時に「附属図書館医学分館」となりましたが、平成22年4月1日より「附属図書館医学図書館」と改称しました。

2010.6

◆看護学科実習演習コーナーの設置 (2010.6)

看護学科の実習・実習のための参考図書を集めたコーナーをオープンしました(2階書架No.54)。これらの図書は、看護理論、看護過程論で学生の皆さんに利用してもらうため、退職された樽井准教授が選定し、寄贈していただいたものです。



2010.9

◆第19回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会総会 (2010.9.14)

本学医学部看護学科棟3階会議室にて開催しました。本学の地域医療支援学講座・谷口栄作教授による「島根の地域医療」と題する講演があり、続いて医図懇加盟機関データ更新について報告がありました。

加盟館からは、文献検索(松江市立病院・佐々木氏)、薬剤科の図書室勉強会(島根県立中央病院・高橋氏)、データベース・電子ジャーナル(島根大学医学図書館・葛原)について発表を行いました。

2010.10

◆西東文庫企画展示・講演会「異国からみたニッポン」(2010.10.30~10.31)

島根大学医学図書館、島根県立大学短期大学部出雲キャンパス図書館、出雲市立図書館の3館合同で、当館所蔵の貴重図書コレクション「西東文庫」の企画展示及び講演会を、出雲市立出雲中央図書館において開催しました。

2010.9

◆中学生職場体験2010 (2010.9.30~10.1)

昨年に続き松江市立湖南中学校から、図書委員をしているという生徒2名が訪れました。夏季休業後の膨大な量の返却図書を書架に戻したり、書架や机を拭いたり、とても頑張ってくれました。学校での活動にも役立つことでしょう。



2010.10

◆図書館コンシェルジュ (2010.10.1~2011.1.28)

学生協働によるピアサポートとして、学生から図書館コンシェルジュの希望者を募り、9名が学習サポートと業務サポートの活動を開始しました。1月末までの4ヶ月の活動期間でしたが、様々なアイデアによる企画が実施されました。

◆第6回図書館蔵書リユース市

(2010.10.29~10.31)

あいにくの空模様に加え、昨年より少ない約5,000冊の図書でしたが、初日に大勢の方に訪れていただき、半数近い図書を購入していただくことができました。

● 医学図書館

2009.12

◆第6回島根県病院図書室セミナー

(2009.12.17)

文献検索データベースCiNiiの操作法と、電子ジャーナル「メディカルオンライン」について研修を行いました。また、「回想法」を実践しておられる鈴木正典氏(出雲市民病院理事長)に講演をしていただきました。

2010.2

◆「大森文庫」掛軸の複製作成とミニ展示

(2010.2.24~4.)

「大森文庫」に収蔵されている掛軸類は江戸時代後期に作製されたもので、劣化等による傷みが目立っていました。これを表装し直し、撮影して実物大の複製版を作成しました。本物と見分けがつかないほどで、医学図書館前の壁面展示コーナーでミニ展示をしました。



島根大学附属図書館報
淞雲 第11号
平成23年2月発行

発行 島根大学附属図書館

本館 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089

医学図書館 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL (0853) 20-2092 FAX 20-2095